

# ひらつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '83 10月号

□ 秋期特別展「現代日本画展」 □

平塚の杜 **文化センター** に  
芸術の秋が来た!!

- 幻夢の世界から  
知性派の君に  
ファンファーレが・・・・。
- 教養派の君には  
繊細な美意識のジャンルが  
もうひとつ・・・・。

▼ 写真：工藤甲人作「木の葉鳥」

博物館の特別展示室では、現在、絢爛豪華な美術展がくりひろげられています。

現代の日本画壇を代表する12名の作家の作品が、まばゆいばかりの格調の高さを誇示しつつ、陳列されています。久々の名画展に、鑑賞に訪れる人びとの目は、驚嘆と感激の輝きに満ちています。

日本画の、伝統的線描表現をふまえる流れや、線描を離れて、色調の階調表現を主な要素とする、自由に表現された作品は、まことに芸術の秋の鑑賞に十分耐え得るものばかりです。

出品されている作品は、岩崎英遠、川端龍子、前田青邨、山本丘人、工藤甲人氏らの作品です。

会期は、10月1日から14日までです。



# 10月の行事

1	土	プラネタリウム、古文書講読会
2	日	プラネタリウム
3	月	(休館日)
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	プラネタリウム、土曜観察会「自然の新聞を作ろう」、石仏を調べる会
9	日	プラネタリウム
10	月	(体育の日・休館日)
11	火	(振替休館日)
12	水	
13	木	デッサン教室
14	金	デッサン教室
15	土	プラネタリウム、古文書講読会
16	日	プラネタリウム、地層観察会「レキ種と古流向」、体験学習会「紙をすこう」
17	月	(休館日)
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	プラネタリウム、土曜観察会「自然の新聞を作ろう」、石仏を調べる会
23	日	プラネタリウム
24	月	(休館日)
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	プラネタリウム
30	日	プラネタリウム
31	月	(月末休館日)

\*寄贈品コーナーでは、「サマー・セミナーの想い出」展を行っています。  
10月30日まで。



あなたも参加してみませんか

## ●紙をすこう 一手すき和紙

日本古来の手すき和紙を実際にすいて、手作り和紙を作ります。

日時 10月16日(日) 9~15時

場所 博物館・科学教室

費用 500円(材料費)

申し込み 往復ハガキで、10月12日までに博物館までお申し込み下さい。申し込み多数の場合は、抽選で15名まで。



## ●自然観察会 「震生湖に秋をたずねて」

秦野市震生湖付近で地質や植物の観察します。

日時 11月13日(日) 9時~16時

(雨天中止)

場所 秦野市震生湖付近

定員 30名(多数の場合は抽選)

申し込み 10月31日までに往復ハガキで博物館まで。

## ●星を見る会 「秋の星座」

博物館の屋上で、秋の星座と、星雲、星団の観察します。

日時 11月25日(金) 18~20時

参加自由。当日、博物館1階の科学教室にお集まり下さい。



## ●体験学習 「巣箱を作ろう」

巣箱作りは今年で4年目ですが、例年通り、午前中、巣箱を作り、午後は高麗山にかけに行きます。昨年までにかけた巣箱の掃除も行います。

日時 11月27日(日) 9時~16時

(雨天の場合は室内作業のみ)

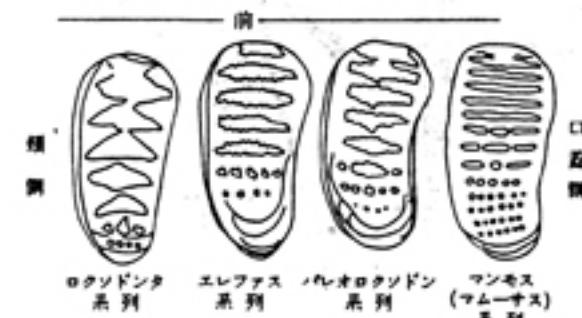
場所 博物館・科学教室 (午後は高麗山)

申し込み 往復ハガキで、11月15日までに博物館までお申し込み下さい。申し込み多数の場合は、抽選で20名まで。

# § 平塚なうまんぞう物語 §

## 4 ゾウの臼歯

ゾウは一般に臼歯の形態で分類される。アフリカ象の臼歯の咬合面(かみあわせ面)には図のような菱形の模様が見られる。したがって、アフリカ象は「菱形の模様のある歯」といういみのロクソドンタ属と呼ばれる。ナウマン象の臼歯はアフリカ象のものと似ているが、それともやや異なっている。それゆえ、ナウマンゾウは「古い型の菱



ゾウ科の臼歯の咬合面 (龜井による)

形模様のある歯」という意味のパレオロクソドン属と呼ばれる。こうした臼歯の形態は生活環境や何を食べるかによって異なってくる。アジア象は草を主とする草食性であるのに対し、アフリカ象は木の葉や若芽を主とする葉食性である。

ところで、人間のように何本も小さい歯が並んでえているものでは、乳歯が永久歯によって、一時期に上下方向に生え変わる。こうした歯の交換の仕方を垂直交換という。これに対して、現生の象では下顎に2~4本の歯しかなく、その生え変わり方をみると、使われて摩滅した臼歯は前へおし出され、その後ろから新しい臼歯が現れてくる。つまりあごの奥から前へと歯が生え変わる。こうした歯の交換の仕方を水平交換という。ナウマンゾウの臼歯も同様な交換を行う。しかし、古い時代の象では、下顎の片側に4~5本の臼歯をもっており、垂直交換を行っていた。古い時代の小型の象から、時代が新しくなって体格が大型となり、大量の食物をとることが必要になると、歯が大型で多量の硬い草をかみ切ったり、すりつぶしたりするのに都合のよい歯へと変化してきたのである。こうして新しい時代になると、歯は数

が少なくなると共に、大型化してきた。

人間の場合成人ではあごの片側に前から奥へ向かって、切歯2本、犬歯1本、小白歯2本、大臼歯3本が生えており、全部で歯の数は32本である。しかし、水平交換を行う象では成長するにつれ、小白歯3本と大臼歯3本とが1本ずつ生え変わる。象の歯は切歯が伸びたもので、他の哺乳動物



ゾウの歯の水平交換 (コーンウォール, 1956による)

物の歯のような犬歯ではない。それゆえ化石象の臼歯が何番目の小白歯あるいは大臼歯なのかによって、その年令を推定することができる。

今回最初に産出した下顎骨に伴われた臼歯は、長さが25cmほどある第三大臼歯で50~60才のものであった。象の臼歯は50~60才で摩滅しつづくので、60才を越えると歯なし象となり生活することができないといわれる。また、その後に産出したもう一つの臼歯は、長さが12cmほどの第一大臼歯であった。この象は10~20才のものと推定される。したがって少くとも2頭以上の象が生息していたことになる。

なお、臼歯の他に産出した象化石には、頸椎(首の脊椎)、胸椎(胸の脊椎)、脛骨(すねの骨)、肋骨などがある。また、シカの臼歯や上腕骨も同時に産出している。このほか未同定の骨も多数あり産出した骨化石の数は、総計で100点を越えた。

(学芸員 森慎一)

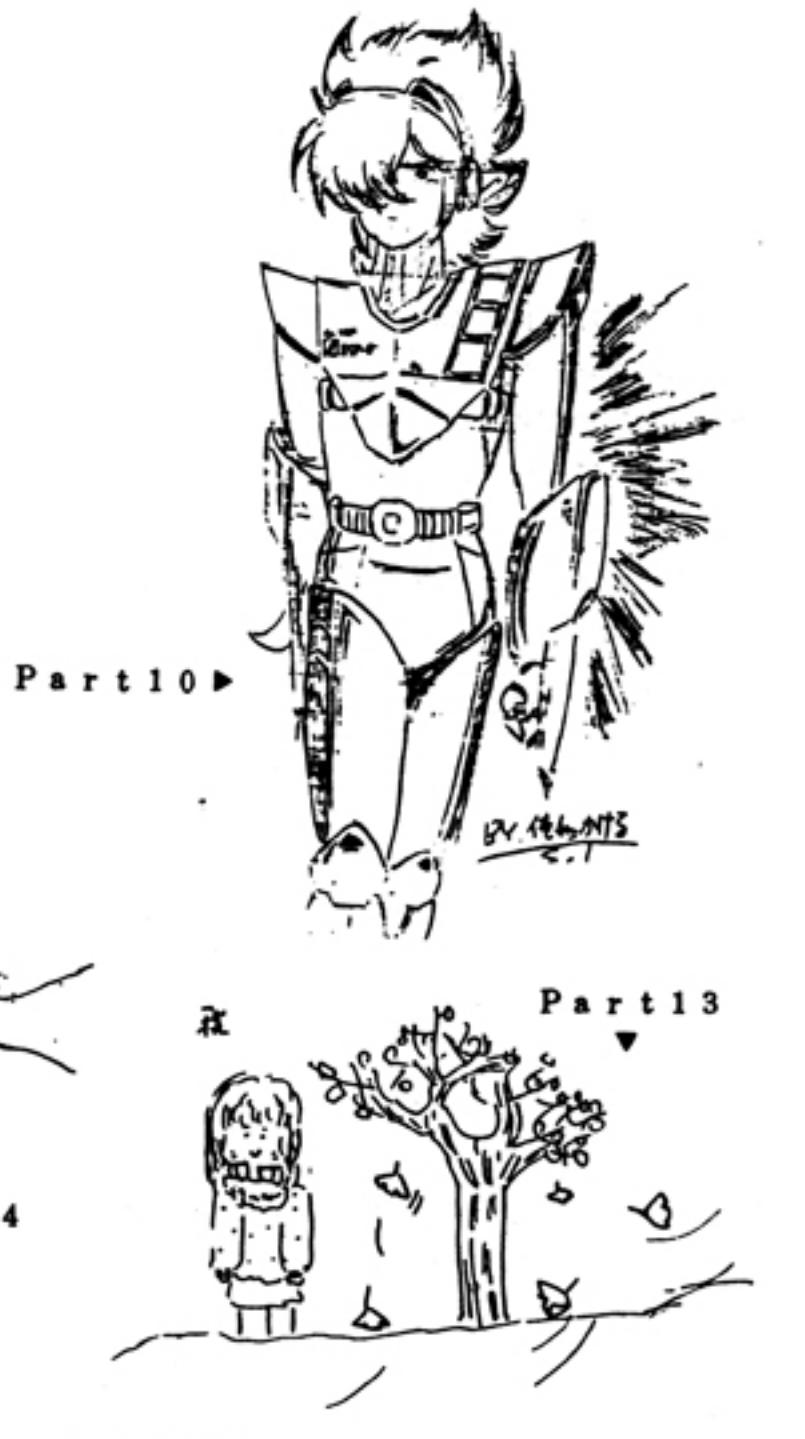
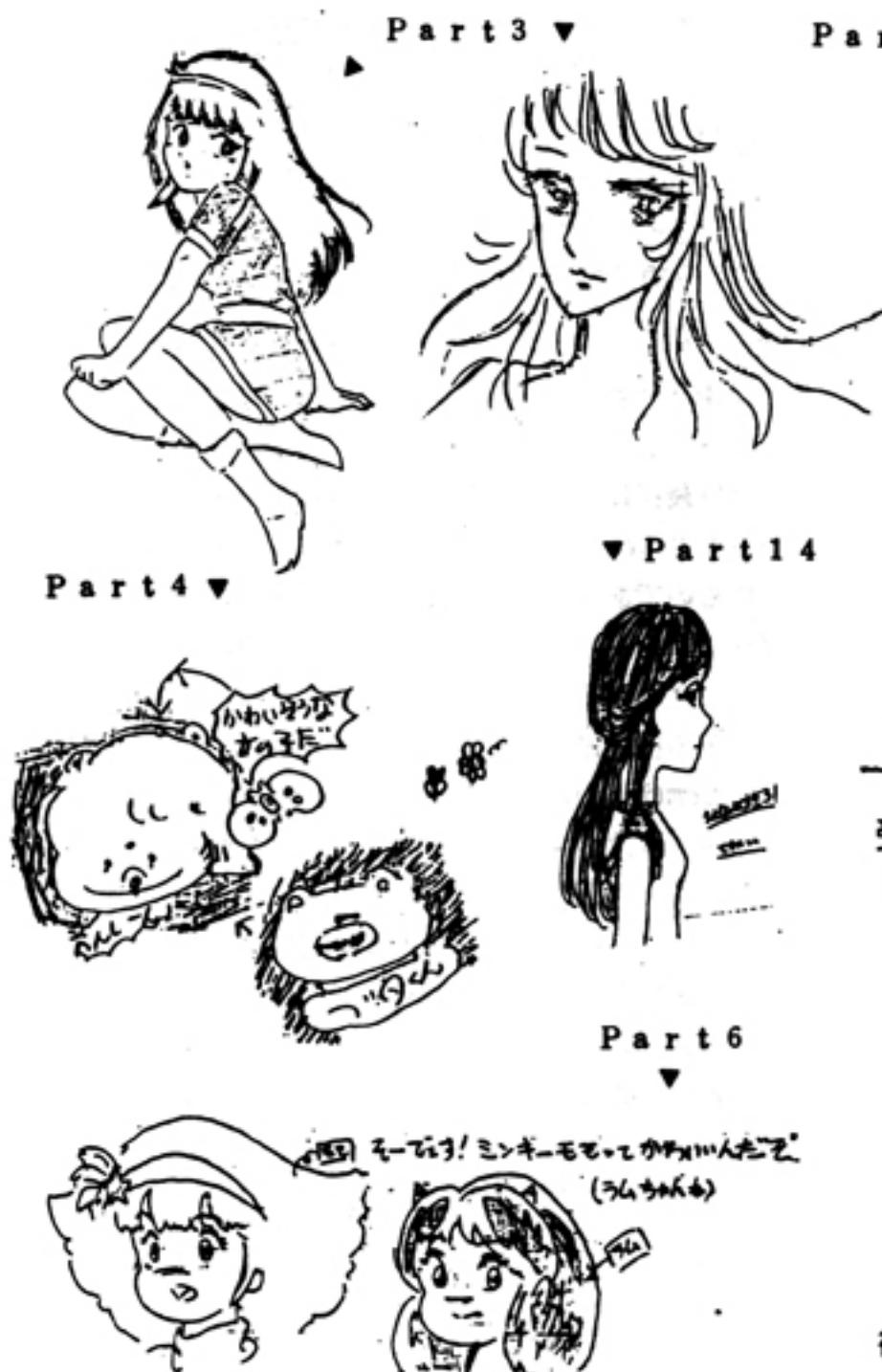


# —みんなのサロン—

(博物館から)

博物館の2階にある、「情報コーナー」の片隅に「何んでも書いてみようノート」を置いてから、1年半が経ちました。Part 1から始って、ノートの冊数もPart 14までになりました。今回は、その中から、優れたアニメをピックアップして、特集いたします。

(「何んでも書いてみよう」ノートより)



## 受入寄贈資料

- 9. 14 ワラグツ 平塚市老松町11-16  
大滝明子様
- 17 ゲートル、蓄音機、義太夫肩衣・袴  
など 平塚市東八幡1-4-25  
大貫マツ様
- カブトガニ 平塚市西八幡2-4-3  
阿部軍次郎様
- 22 円板(スギ、クロマツ) 平塚市宮の前5-3 秋山藤兵衛様

御協力を深く感謝いたします。